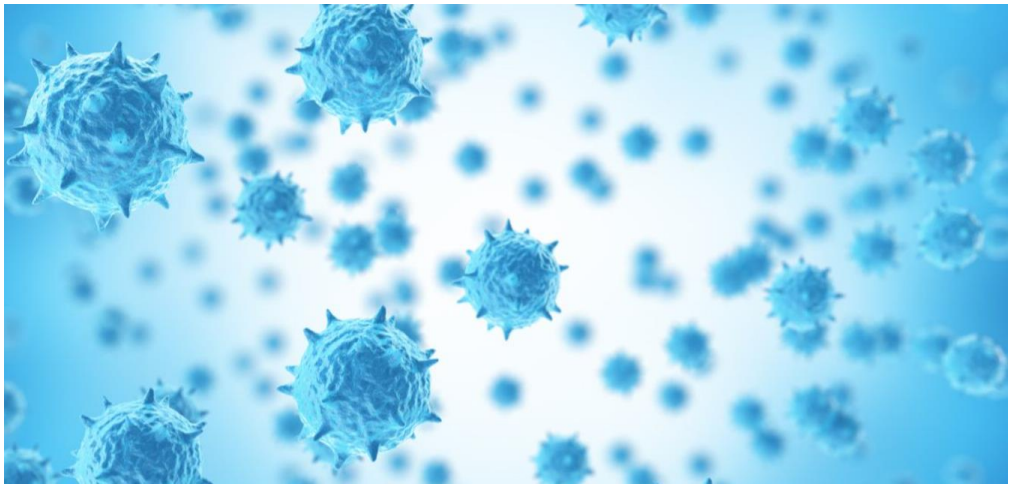
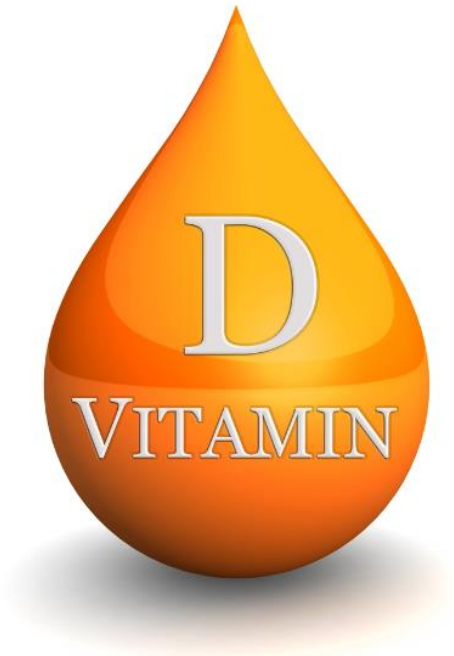
ビタミンＤによる炎症性腸疾患の上気道感染予防

　一般的に、ビタミンD欠乏による易感染性と補充によるインフルエンザや急性呼吸器感染症の予防効果が報告されています。



　潰瘍性大腸炎（UC）やクローン病（CD）などの炎症性腸疾患（IBD）では、非 IBD に比べてビタミン D 欠乏が認められることが多く、その原因として腸炎の持続や腸管切除に伴う吸収障害、低い日光照射量、ビタミン D の摂取不足、薬剤の副作用などとの関連が報告されています。

　このたび、血清 25-OHD 値が 20ng/mL 未満である場合は、ビタミン D の補充によって IBD の上気道感染症が予防できる可能性が示され、Inflamm Bowel Dis 誌に報告されました。ビタミン D の補充は、500IU/日（ビタミン D_3 サプリメント）を 6 カ月間内服しました。

なお、介入によってビタミンＤ群では血清25-OHD値が有意に上昇（P＜0.001）、iPTH値は有意に減少しました（P＝0.015）。プラセボ群では25-OHD値が有意に減少（P＜0.001）、iPTHは不変でありました（P＝0.087）。一方、血清Ca値は両群とも介入前後の差は認めませんでした（ビタミンＤ群：P＝0.077、プラセボ群：P＝0.075）。